

「MICE誘致とビジネスマッチング」

(公財) 福岡観光コンベンションビューロー 専務理事 藤本 道雄



MICEとは？

Meeting



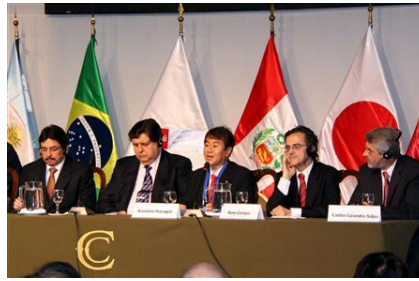
企業会議・研修

Incentive Travel



社員の報奨旅行・招待旅行

Convention



国際会議・学会

Exhibition **E**vent



展示会／スポーツ・文化イベント

MICEとはつまり、**ビジネスイベント**。

ビジネスイベントによる積極的なインバウンドツーリズム推進事業。

観光庁によるMICE定義

MICEとは (観光庁資料による)

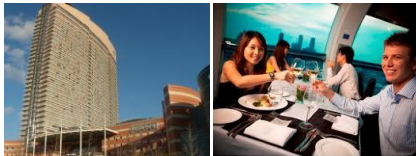
類型別	内容	例	特徴
M Meeting ミーティング	企業のミーティング等	海外投資家向け金融セミナー、グループ企業の役員会議等	・実態が把握しにくい ・数十～数百名規模で多数開催されていると推定
I Incentive (Travel) インセンティブ	企業が従業員の表彰や研修などの目的で実施する旅行(企業報奨・研修旅行)	営業成績優秀者に対する本社役員によるレセプション、表彰式等	・実態が把握しにくい ・1,000名単位のものも少なくない ・旅行者一人当たりの消費額が高いと言われる ・ツアー日数は1週間程度が多い
C Convention コンベンション	国際団体、学会、協会が主催する総会、学術会議等		・九州・沖縄サミット ・世界水フォーラム ・国際サンゴ礁シンポジウム ・国際解剖学学会等
E Event / Exhibition イベント/ エキジビション	文化・スポーツイベント、展示会・見本市		・東京国際映画祭 ・世界陸上競技選手権大会 ・アジアバスケットボールリーグ ・東京モーターショー ・国際美術展等
			・外国人参加者は全訪日外客数の1.3% ・平均開催日数は2.7日 ・平均参加者数430人(外国人約60人) ・外国人参加者千人以上のものも存在
			・国際的なイベント・展示会等の件数・外国人参加者数のデータはない ・外国人来場者千人以上のものも存在

MICEの目的と意義

ビジネスイベント（=MICE）がもたらすものとは何か。

『消費効果』 『産業振興』 『都市の国際化』

観光産業・ビジネスイベント
運営産業などの振興



幅広い産業への
経済効果



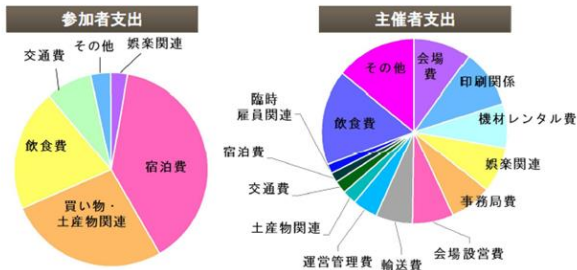
知的財産による
産業波及効果



ネットワーク構築
ビジネスイノベーション



観光産業を中心とした直接的な経済効果や、都市機能の充実・国際化はもとより、
知的財産の産業への波及によるビジネスイノベーションが期待できる。



◆参考DATA

MICE主催者・参加者の支出構成イメージ

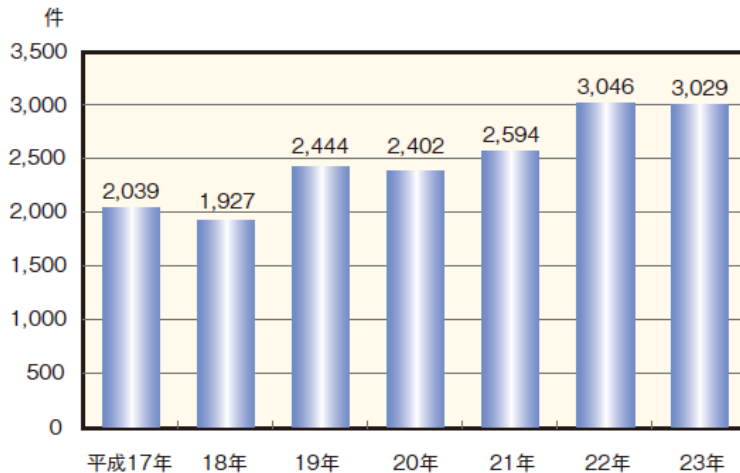
個人旅行に比べ、MICE関係者の消費は多様で裾野が広い。
MICE開催時における会場費や機材レンタル費、周知や当日資料としての印刷関連費など、
様々なカタチでの消費が生まれるのがMICEの特徴でもある。

MICE世界・アジア市場の現状

①

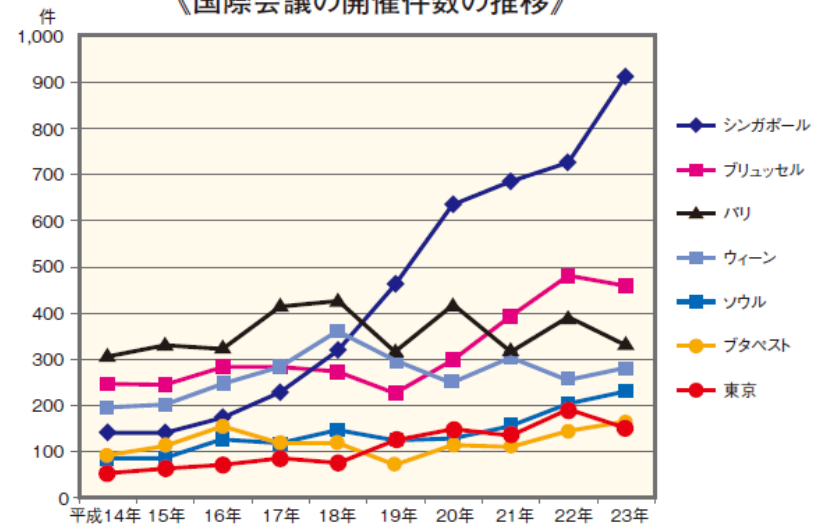
急激な経済成長と共に、アジアでの国際会議件数は急上昇中である。

《アジア地域における国際会議の開催件数》



出典：日本政府観光局（JNTO）国際会議統計

《国際会議の開催件数の推移》



出典：「2011年UIA国際会議統計」（UIA（国際団体連合））より作成

国際的都市間競争のテーマであり、日本は後塵を拝している。

②

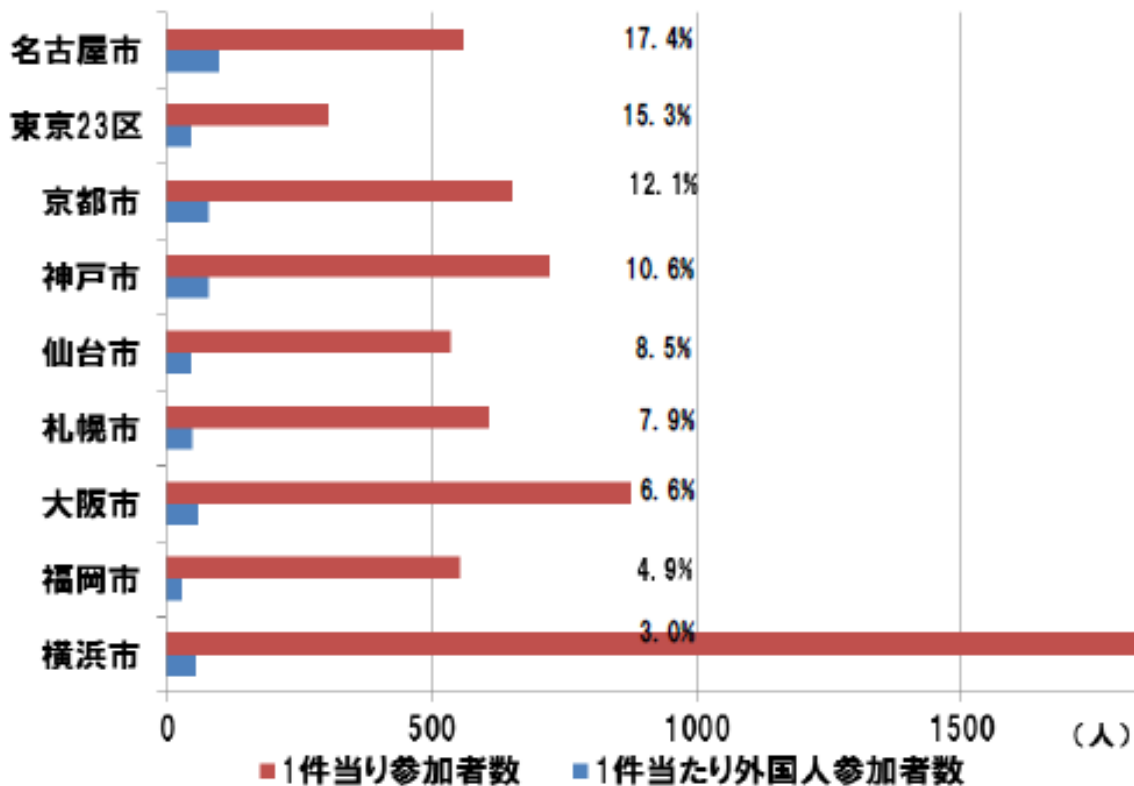
国際コンベンションの強化の余地

開催件数は多いものの、国際性や規模において強化の余地は大きい。

国内の大学で国際会議開催件数がトップの九州大学が貢献している。

国際コンベンションへの参加者総数と外国人参加者数の比較（2009年）

都市	国際会議件数	外国人参加者数	参加者総数
東京23区	497	23,218	152,193
福岡市	206	5,626	114,103
横浜市	179	9,846	327,513
京都市	164	12,941	107,347
名古屋市	124	12,090	69,416
大阪市	94	5,421	82,300
札幌市	82	3,971	49,958
神戸市	76	5,859	55,092
仙台市	60	2,734	32,136



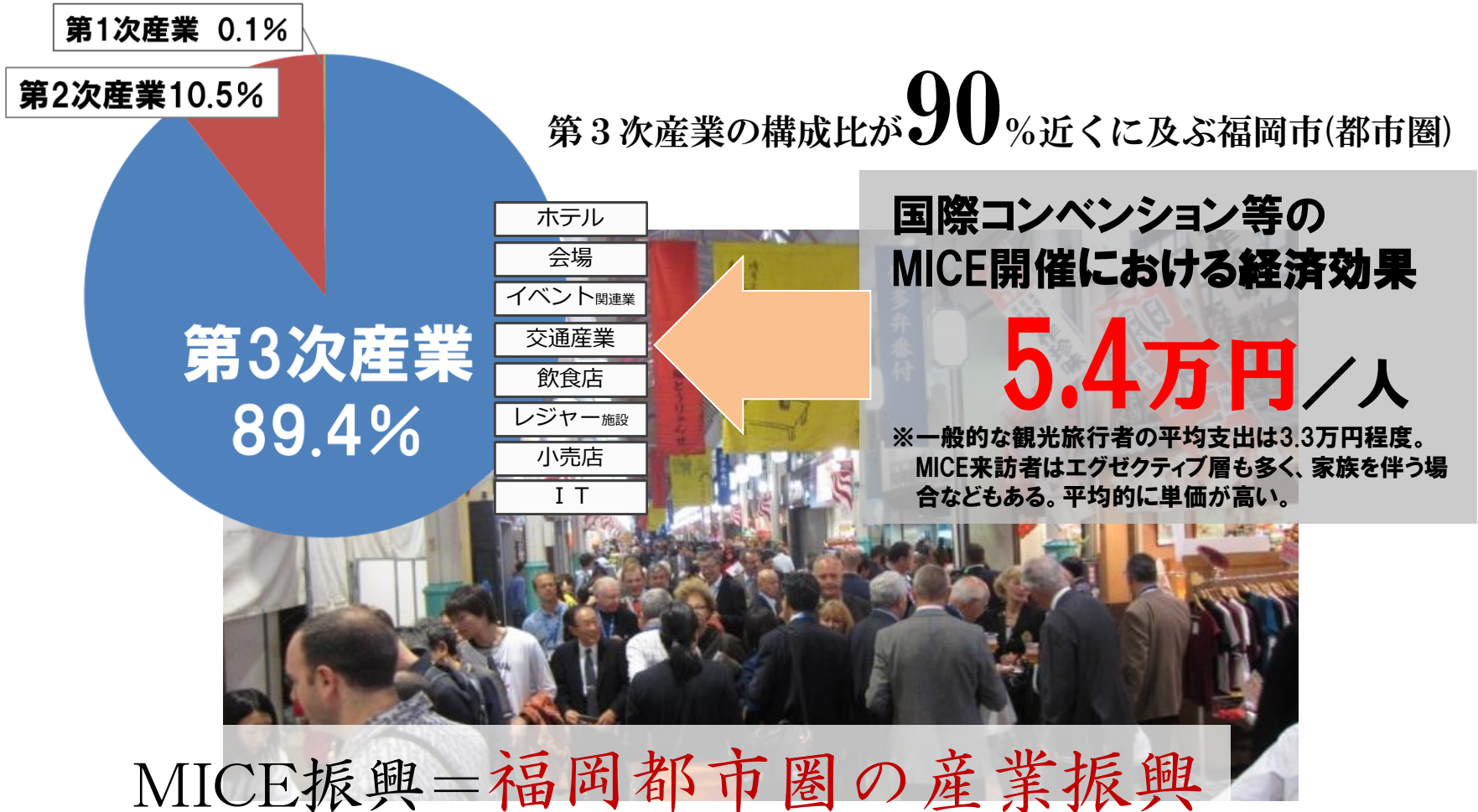
国際コンベンション1件当りの参加者数と外国人参加者数（2009年）

（注）パーセントの数字は、全参加者に占める外国人参加者の割合

福岡MICEの歩み

	コンベンション	スポーツ	イベント
1989年			アジア太平洋博覧会
1995年	マリンメッセ開業	第18回ユニバーシアード大会	
1997年	第31回アジア開発銀行年次総会	パンパシフィック水泳選手権大会 国際陸上競技連盟グランプリファイナル	
2000年	九州・沖縄サミット福岡蔵相会合		
2001年		第9回世界水泳選手権大会	中世博多展
2002年	第14回東アジア西太平洋電力協会大会		ロボカップ2002福岡・釜山
2003年	第26回日本医学会総会	福岡国際会議場開業	
2004年	第59国際青年会議所世界会議		海フェスタ福岡 海の祭典2004博多港 第19回国民文化祭 ふくおか2004
2005年			第22回全国都市緑化ふくおかフェア ねんりんびっく ふくおか2005
2006年	世界政治学会 2006福岡大会 第21回国際高血圧学会学術会議	第34回世界クロスカントリー選手権大会	
2012年	4大イベント	第32回国際泌尿器科学会総会 (SIU2012) 第4回国際ユニヴァーサルデザイン会議 in 福岡	2012ゴールデンオールディーズ ワールドラグビーフェスティバル福岡 第51回東洋東南アジア (OSEAL) フォーラム
2013年		グランプリファイナル福岡2013	
2016年		ライオンズクラブ国際大会	

MICE振興の目的

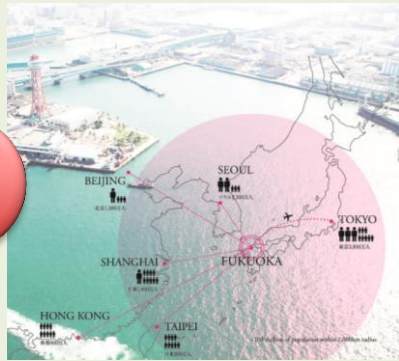


MICE振興 = 福岡都市圏の産業振興

域外のヒト・モノ・カネを呼び込む きっかけ、近道となる。

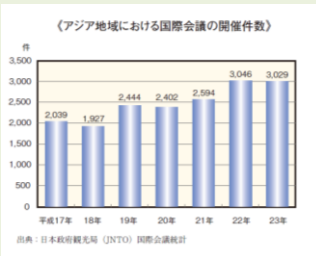
MICE都市福岡のポテンシャル

1



【地理的優位性】

アジアの大都市群の中心に位置する福岡



◆アジアでの国際会議件数の増加

東京・京都・横浜など国内の競合都市に比べ、旅費交通費が安く抑えられる。また福岡空港の発着数も年々増加している。

2



【都市機能的優位性】

コンパクトな都市構造と物価の安さ

◆半径2.5km圏内に都市機能が集中。他都市に比べ物価も安い

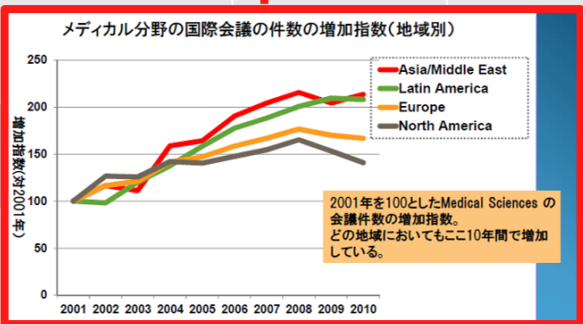
都市機能と陸海空の広域交通機能がコンパクトに集中している為、MICE開催中の移動や宿泊にかかる時間と費用が抑えられる。

また、競合国内都市に比べ物価が安いのも開催側には魅力的。

* MICE誘致に成功している海外の都市と比較しても高くない

MICE重点分野

	Meeting	Incentive	Convention	Exhibition	Event	備考
アジア						<ul style="list-style-type: none"> "アジア"はCを中心に、全分野共通のキーワード。近接性・直行便数を活かした競争優位の活用
医療・医学	C開催時の付帯Mとしての開催等		医学が圧倒的なシェアを有する。但し競争も	Cに併設される展示会等		<ul style="list-style-type: none"> 研究者の知名度・影響力が大きな影響を与える分野 研究者の発掘、協力体制構築が必須
新産業			会議件数も比較的に見込める分野(件数確認中)	市・県の産業振興策の一環としての開催可能性		<ul style="list-style-type: none"> 水素・有機EL等の九州大学の研究者及び研究シーズの活用 産業集積地との連携手法を検討
クリエイティブ				特に東京一局集中が進む分野	イベントについては東京以外でも可能性大	<ul style="list-style-type: none"> Exについては、圧倒的なマーケット規模・バイヤー集積を有する東京に集中 バイヤーを呼込む仕組みが必要 (Ex)
食				市・県の産業振興策の一環としての開催可能性	九州内外からの集客可能性 ただしBtoC	<ul style="list-style-type: none"> 研究をベースとしたCでの展開は困難。 Ex・Evが有望だが、どこまでEvに注力するか (Evの意義の再考)
スポーツ					高い競争力と実績を有する分野	<ul style="list-style-type: none"> 大型催事の開催実績など、福岡が強みを有する分野 行政による誘致活動をDMPが支援



アジアや大学がKeyword

県内に大学36校・短大21校を有する福岡県。そのほとんどが福岡都市圏に集中しており、医療系など理工系学部をもつ大学との連携による国際会議等の誘致は注目される。
 参考/九州大学・九州工業大学・九州歯科大学・福岡大学・産業医科大学・福岡歯科大学・第一薬科大学・久留米大学・久留米工業大学 等